

理想の教師はミッフ・ジャガー



佐藤良明

「英語は実技科目、体に覚えさせなくてはダメ」とわたしもよく言うのだが、ただ言うだけでは無意味である。実技というならどんな実技か。音楽のようなものか、体育のようなものか、それとも演劇のようなものか。広く類比をたずねながら、具体的に説いていかないと、生徒の役には立たないだろう。

学習者の頭と心と体の全体に対して、われわれ教師はどう働きかけていくべきなのか。問題は単に「英語」にとどまらない。国語、音楽、体育、その全体をひっくるめて、教育における身体の問題を、もっとともに引き受けるべきではないかと思うのだ。

わたしの自由になるなら、わたしは国語に落語を入れる。小学生のうちがいい。古典落語など、子供はすぐに覚えるものだ。『声に出して読みたい日本語』という本が流行ったけれど、「祇園精舎の鐘の声……」の類だけじゃなく、落語や漫才に受け継がれた、豊かな日本語のしらべを子供たちが感じ取り、吸収できる環境作りこそ整えていきたいと思うのだ。

音楽の時間には、ドラムセットが必要だ。クラバスもグイロもコンガもみんな買い込んでマンボをやろう。4つ打ちのバスドラに合わせてディスコを踊って、そのまま八木節に流れ込もう。伝統の小節回しをみんなで習って、氷川きよしにチャレンジだ！

わたしは過去数年、東大駒場でロック・ブルース・歌謡曲を中心にポピュラー音楽の講義を行ってきたが、音楽を「講義」することの空しさを感じてしまい、少人数のクラスを担当した昨年は授業の演題を〈Sing America〉とした。1840年代の minstrel・ショーのナンバーから、カントリーやジャズ・ボーカルの名曲、ブロードウェイのスタンダード、ロックンロール、

最後の締めはアース・ウィンド&ファイアーの「宇宙のファンタジー」。セミプロの実力をもつ院生のギタリストやキーボーディストと一緒に参加してくれたため、とても楽な授業となった。

「それが大学の授業ですか？」と呆れられもするが、日本語や英語や音楽について、verbal に記述できることだけを集めて学習項目をつくり、それらを頭で覚えた子を優遇するというやり方は、われわれの生きる社会のしくみに、すでに合わない。「英語の授業」という名で今なお継続している、「できる子」と「できない子」を峻別するための膨大な労力を、もっと音楽的・体育的な方向へセットし直すべきである。

わたしがひそかに企んでいるのは、「ビート・パターンで分類した英語フレーズ集」の制作である。「強・強」のツービートの項には、“That’s right.”や“You’re wrong.”が並ぶ。これを授業で教えるには打楽器があるといい。“That’s not right.”ではドラムをダン・ダン・ダンと3つ打つ。日本語なら「そりゃ・ちがうで・しょ」の3拍がこれと等価だ。

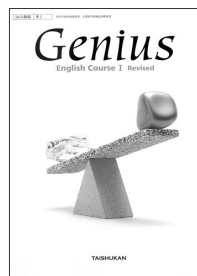
近代（エリート階級の時代）に標準とされた英語は、クラシックのメロディのように、高低のイントネーションが重要だったが、現代（映像音響の時代）の英語はロックのように、ビートの置き方が表現上のポイントとなる。“Start me up.”は「強・弱・強」だが、その記述だけでは不十分。2つめの強拍 up は「拍を食う」ようにシンコペートして（つまりウラ拍で）発声する。これを教えるなら、やはりローリング・ストーンズのコンサート映像を見せて、みんなで右腕を突き上げながら練習するのがいいだろう。

（さとう よしあき・東京大学大学院教授）

Genius English Course I Revised

生徒に伝えたい、静かで熱い教材

小菅敦子



■あえて新しい教材に

Genius English Course I Revised では、Points in Reading を英語にしたり、Words List を入れたり等、現行版に微調整を加えた箇所がいくつかあるが、大きな改訂のポイントは、5つの新しいレッスンを作ったことである。

特に、初版以来の「戦争・平和」教材である「ルミちゃん（現行版 Lesson 5 “Blowing in the Wind”）」をあえて新しいもの（改訂版 Lesson 4 “Young Victims of War”）に入れ替えたことは大きな変更点である。広島の大原爆で両親を失い、自身もその幼い身体が蝕まれていく様を描いた「ルミちゃん」のような教材は、戦争の悲惨さを訴えるには非常に説得力があり、1人の少女の悲しみが胸を打つ。私も最後まで涙なくして声に出して読むことがいまだにできない。しかし、この教材での戦争は太平洋戦争であり、その悲惨さだけが強調されては、現在を生きている高校生にはどこか離れた世界のことになりかねない。実際、以前は「戦後」と言えば、「第二次世界大戦または太平洋戦争後」のことを言ったはずであるが、今の高校生にとっては「どの戦争の後のこと」かピンとこない。それほど、21世紀になって、かつて私たちが考えていなかった形で世界中のいたるところで戦争が起き、そして、それによって心も体も傷ついている人々、特に子供たちがいるのである。

「このような現実を私たちはどのように受け止めていったらいいのか、そして、この地球上で同じ今という時間を共有する私たちができることがあるだろうか」という視点で、新しい「戦争・平

和」の教材を作成した。具体的にはアフガニスタンやコソボの子供たちを紹介し、その戦争被害者たちに読者である高校生がどのように関わっているか、実際に行われている援助について紹介するものである。戦争被災者への援助というと、すぐに衣食住に関心が行ってしまうが、子供たちの心のケアを考えていくと、必然的に学習の援助や、遊びや芸術、そしてスポーツの面からの援助も必要で、これが意外な盲点となっている。

そして、このレッスンでもっとも注目していたきたいのは、最後の、元国連難民高等弁務官の緒方貞子さんの私たちへのメッセージである。緒方さんは“First, you need to accept them as equals, get to know them, and treat them like any other friend you have. As you get to know the young people who cannot study, or who have had to leave their homes because of war, you can learn from them as they learn from you.”（本文抜粋）と述べ、「助けてあげる」のではなく、「対等な立場で共に生きる」ことを強調している。涙をそそる教材ではないが、明日を担う高校生に、読んで戦争について冷静に考えてもらいたいレッスンである。

■他の4つの新レッスンについて

現行版の Lesson 1 から Lesson 3 の文法事項を新しい2つのレッスンに集約して、読みやすさを考慮しつつも、内容を充実させた。Lesson 1 “The World of Street Performers” では、世界で活躍する2人のストリート・パフォーマー（大

道芸人)を紹介し、ストリート・パフォーマンスの楽しさとその真髄を述べている。写真を多数掲載し、興味ある内容になっているので、入学したての高校1年生にも取り組みやすいはずである。

Lesson 2 “Jamie Oliver — The Naked Chef”では、イギリス生まれの世界的に有名なシェフの生い立ちと料理哲学を紹介する。彼が21歳の時に働いていたレストランをたまたま取材したBBCが彼に目を留め、彼の料理番組を制作した。放送と同時に、その斬新な料理のスタイルに世界中が釘付けとなった。“The Naked Chef”はその番組のタイトルである。イギリスでは、「ベッカムに優るとも劣らない人気の若手料理人」と言われている。彼の食へのこだわりは単に番組のためのパフォーマンスではなく、15人のニートをレストランの料理人に育て上げたり、ファーストフード化していたイギリスの学校給食に一石を投じる等、挑戦は続いている。日本でも彼の料理番組が放送されたりレシピ本が翻訳されたりしているので、彼の名を知っている高校生もいるかもしれない。本教材でその人物像と若きセレブシェフの生き方をさらに深く知ってもらえればと考えている。

残り2本の新教材は、選択的な内容の教材として用意したReading教材である。ストーリー性があり、既習の文法事項のみで読み進めやすいものを用意した。現行版では1本だったものを2本に増やし、1本は新たにレッスンの中ごろに配置し、2本目を巻末に入れた。自分のペースで楽しみながら英文を読み進める機会を生徒にできる限り与えることはとても大切なことで、この2つの読み物がそのような役割を果たしている。特に、Reading 2 “The Vicar’s Pleasure”は、昨年映画化されて話題となった*Charlie and the Chocolate Factory*の原作者であるRoald Dahlの作品を、原作を損なわないように短くしたものである。昨今、教科書からは「文学」の香りが消えつつあるが、是非、そこを味わっていただきたいところである。

■ Genius のこだわりと続行レッスン

続行レッスンは、写真、イラスト、レイアウト等は一新しながら、現行版で好評であったものを残した。特にLesson 5 “Easy Japanese”は、採用校での評価も高かったため現行版から継続したオリジナル教材である。本改訂では最新の情報も増補した。阪神淡路大震災の被災者には、当然、その地で生活する外国人も多数いた。使用言語は英語だけにとどまらず、現地ではそのすべてに対応することは困難を極めた。その時に生まれた発想は、「やさしい日本語を用いて、外国人に安全に避難してもらおう」というものであった。「阪神淡路大震災から10年、その教訓は生かされているのか」とよく言われるが、この「やさしい日本語」については、宮城県北部連続地震や新潟県中越地震では実際に効果的であったという報告があり、これからも注目されるトピックである。

*Genius*では、教科書としての使命を考え、高校生に人間としての尊厳と自然を含めた他者との共生を意識してもらえよう教材にこだわっている。それは、残りの続行レッスンにも共通して言えることである。様々な困難にも負けずに通学するギニアの少女を紹介したLesson 3 “Proud Panther”, Paul Jennings原作の物語Lesson 6 “Pink Bow Tie”, 児童労働を扱ったLesson 7 “Child Labor”, アリの生態の秘密に迫るLesson 8 “Ant Communication”, ボランティア活動の意義を謳ったLesson 9 “My Brother’s Keeper”, 難病をおしてニューヨーク・シティ・マラソンを完走した人を扱ったLesson 10 “I Will Be There for You”等、すべて静かに熱く語られたものである。

さらに、今回は、English on the Webという新規コラムでWeb上のオーセンティックな英語を読ませる教材を3本用意した。これも*Genius*のこだわりである。

(こすげ あつこ・東京学芸大学附属世田谷中学校教諭)

Genius English Course I Revised

2つの新指導資料で授業力アップ

教科書編集部

今回の *Genius English Course* の改訂では、教科書の内容面での充実（こちらについては本誌 pp. 2-3 をお読み下さい）と教科書を取り巻く付属資料類のさらなる充実重点を置きました。

現行の指導資料の内容の充実はもちろんのこと、新たに2つの指導資料が誕生しました。どちらも先生方の声を反映させた、学校現場のご意見とご要望から生まれた指導資料です。

Teacher's Book

音声 CD のスクリプトの確認、新出単語、新出文法事項といった学習事項の確認と解説の際に使う例文の確認など、授業の前に必要な下準備は様々です。そしてそれぞれの事項毎に、調べるべき資料も様々です。そのような煩わしさから解放されたい…そんなご要望に応えるべく、本書は作成されました。

紙面は実際の教科書をベースに以下の要素を盛り込みました。

①音声 CD の情報

指導用 CD のスクリプトを紙面に直接載せました。また、音声 CD のトラックナンバーを各ページの該当箇所に明記しました。

授業で音声 CD を操作する際に非常に便利です。それぞれ別々であったスクリプトやトラックカードに頼ることなく授業が進められます。

②新出単語、重要イディオムの情報

教科書の脚注部分に記載している新出単語については、本課初出の箇所に NW と表記しま

した。また、同じくイディオムについては該当部分に二重下線を施しました。本文中での新出単語・イディオムが一目で分かります。さらに、用法を間違いやすいイディオムには追加情報として、間違いの例文を載せています。

③ Grammar, Useful Expressions の追加情報

教科書本文中に **G-1**, **E-1** 等と記載している新出文法項目、および新出表現に補足情報を追加しました。例えば、完了形であれば、現在・過去完了、および〈完了〉〈継続〉〈経験〉などの完了形の用法を記しました。

文法事項の解説には、教科書の Grammar で取り上げた例文とは別に、短くわかりやすい例文があると便利です。Teacher's Book では、文法・表現事項を取り上げているページで、用法による意味の違いや類似の表現など解説の際に例文が必要とされる部分については、各ページの余白部分に解説用の例文を載せました。

④本文中の設問

各セクションおよび各ページで取り上げている設問にはすべて解答を明記しましたので、Teacher's Manual の内容が先取りできます。

また、脚注の下に設けた設問 FIND の該当する語（句）の部分には本文に直接▼で表示をしました。どこが設問になっているのかが一目瞭然です。

⑤その他の重要事項

すでに扱った新出文法事項が、後の Lesson でも出て来た場合、どの Lesson で取り上げた

かを示しました。授業中に既習事項に立ち返ることができます。

また、新出文法項目以外の重要文法事項についても**構文**と表記し、簡単な解説と例文を載せました。

ポストリーディングの部分では、問題の解答と、リスニング問題のスクリプトを載せましたので、こちらも *Teacher's Manual* で確認をする手間が省けます。

以上簡単な内容を紹介しました。詳しくは一部見本をご覧ください。

指導用パワーポイント CD-ROM (for Windows XP)

学校における授業（教室）の環境は急激に変化してきています。すでに、全教室にパソコンが設置されている学校も少なくありません。また、日頃オーバーヘッドプロジェクタや大型モニターを通じて授業ができればとお考えの先生もおられることでしょう。

そのようなリクエストに応えるべく、指導用パワーポイント CD-ROM は作成されました。

詳しい内容については今回制作しましたデモ CD-ROM に譲り、ここでは大きな特色を紹介します。本 CD-ROM は従来の CD-ROM とは異なり、教科書本課のテーマや文化を扱った周辺情報（資料）集ではありません。教科書を持たずに、本 CD-ROM 1 枚で、後は画面をクリックするだけで授業を進めることすら可能です。

その具体的な構成・内容は、以下のようになっています。

①新出単語

セクション単位で新出単語とその音声データを取り上げました。セクションで取り上げるすべての単語の音声を連続して再生することも、発音やアクセントに注意を要する単語の音声だけを流すことも可能です。語彙・発音指導もこれ 1 枚ですませられます。

②本文

本文の音声は、セクション全体の音声を通して再生することも、センテンス単位で再生することも可能です。

また、教科書の **G-1, E-1** マークについての詳しい解説の表示、本文の日本語訳、新出単語・イディオムの解説、その他の重要事項の解説をその都度表示させることができます。実際の授業の流れに合わせて必要なときに必要な解説を表示できます。

③教科書の設問

Points in Reading や FIND など、本文中の設問と本文終了後に扱う各設問の解答を表示することができます。また、脚注で取り上げた例文、Grammar, Useful Expressions の例文の日本語訳を表示することも可能です。リスニング問題では直接音声を再生することもできるので、音声機材に頼らずに、その場で出題できます。

以上のように、単なるプレゼンテーション用のスライドを超えた内容となっています。

この CD-ROM のために別途用意すべきものではありません。例えば、プレゼンテーション用ソフトであるパワーポイントがなくても、CD-ROM に収録したソフト（パワーポイントビューワー）をインストールすれば、すぐに授業でご利用可能です。インストールもダブルクリックで自動的にされるので手間がかかりません。是非デモ CD-ROM を試しに操作してみてください。新しい授業スタイルの導入のお役に立てるはずです。

■おわりに

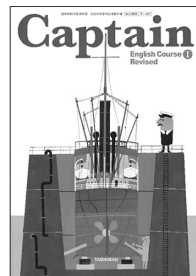
以上 2 点の新しい指導資料を紹介しました。上記の 2 点は「紙面」と「画面」とで媒体は異なりますが、内容はともに同じ要素を取り上げています。両者を併用することで、先生方のお手持ちの資料がさらに充実するはずです。

Captain English Course I Revised

分かる授業を目指す

——付属資料を活用しながら

平原麻子



教育課程実施状況調査（平成15年度：文科省）によると全国の中学3年生のうち、英語が「好きではない」と思っている生徒はほぼ50%に達し、英語の授業が「ほとんど分からない」または「分からないことが多い」とする生徒は約30%いる。そういう彼らが高校に進学し、「英語って楽しい」「ちゃんと勉強してみようかな」と思うようになってくれることが、*Captain English Course*の願いである。そのためには最初が肝心だ。まずは授業を通して英語の音声に親しませ、英語を使って自分を表現することに慣れさせたい。

本稿ではこれらをふまえ、*Captain English Course I* の Lesson 1 “Not No. 1 but Only One”（大ヒット曲『世界に一つだけの花』をモチーフに使った課）の Part 1 を取り上げ、教科書の付属資料を活用しつつ授業を展開する例を紹介したい。

1. トピックの導入

まず、教師自身の好きな曲を生徒に聴かせてみよう。その曲の説明を簡単な英語で行ったあと、“What song do you like?” と質問し、“I like ~’s” という形で生徒に答えさせる。ここでは「英語を使って情報交換をしている」という雰囲気や自然に作り出すことが重要だ。

次に “Lesson 1 is from a very famous Japanese song. Its message is ‘Not No. 1 but Only One.’ What song is this?” と聞く。生徒の多くは SMAP『世界に一つだけの花』を思い出すだろう。そこでおもむろに付属 CD 収録の Have a Break! 1: *One of a Kind* (『世界で

一つだけの花』の英語バージョン) を流して生徒を驚かせる。教師はすました顔で「この歌を英語で歌えるようになろう」と宣言する。

Part 1 花屋の店先にたくさんの花が並んでいます。

compete [kəmˈpi:t] コンペイト] blooms [blu:mz フォームズ] = bloom beautifully [bi:ju:tifull] ビューティファリ] alive [əˈlaɪv アライヴ] proud [praʊd プラウディ]	This flower is beautiful. That flower is also beautiful. They don't compete with each other. Each flower grows and blooms beautifully. Each is alive and proud. So why do we compete?
---	---

? Questions

1. 花は互いにその美しさを競っていますか。
2. 人間は競っていますか。

Lesson 1 Part 1

2. 単語の導入

新出単語の発音と意味を導入する。このとき、中学校ではよく使われているフラッシュカードを高校でも利用してみると意外に効果的である。教科書付属の CD-ROM にはフラッシュカード作成用のデータが入っている。

「カードの英語を見て発音する」「日本語を見て英語を言う」を全員→個人→全員で繰り返したあと、カードは黒板に貼っておく。こうしておくと、音声による内容理解を行うときのヒントになったり、意味を忘れたときにめくって日本語をみせたり等、のちのち使い勝手がよい。

新出単語として教科書に取り上げているものの以外でも生徒にとって難しそうな語 (Part 1 では each, grow など) があれば、ここで扱っておく。

3. 内容理解

(1) CD を聴く

リスニングポイント「花についてどういうことを言っているか聴き取ろう」を与えた後、付属CDをnatural speedで再生する。何度か聴く中で生徒から「みんな美しい」「競い合わない」「イキイキしている」「誇りをもっている」などの答えが出てくればよい。うまく指摘が出てこない部分があればslow speedバージョンを使って確認する。付属CDには2種類の速さが入っているので、生徒の様子を見ながら使い分ける。

(2) 本文を読む

音声である程度の概要をつかんだ後、教科書を開かせる。リーディングポイント「最後の文“So why do we compete?”の“we”は誰のことか考えなさい」を与えた上で、時間を区切って(30秒～1分程度。生徒の実情にあわせる)黙読させる。

このようにリスニングにしりリーディングにし、必ず、何のためにやるのかという活動目標を明確に与えてから開始する。

黙読後、「“we”は我々人間のこと」という答えが出てくれば、すでに生徒は内容理解ができている。このあと本文を1文ずつ読み、意味の確認をしてもよい。

(3) 写真の情報を読む

本文に添付された1枚の写真から色々な情報を読み取ることができる。Part 1の写真はニューヨークにある花屋の店頭だ。底に書かれた文字などから様々なことが分かる。*Teacher's Manual*を参考に話題を広げよう。

4. 音読練習

本文が十分に理解できたら、いよいよ仕上げる音読練習である。まずフレーズに区切りながらモデルの後に続いて読むところから始める。生徒用付属教材の『学習ノート』には教科書本文が掲載され、区切り方も示されている。これがあれば生徒は自宅でも音読練習ができるので便利である。

5. 文法指導と言語活動

Lesson 1の文法項目は、中学校で学んだbe動詞と一般動詞の復習となっている。

*Captain*では、本文を学習したあと **Comprehension**〈内容理解の確認〉→ **Focus**〈文法事項の説明〉→ **Check It!**〈文法知識を確認する練習問題〉という流れで学習を進める構成となっている。生徒たちが中学校で分らなくなっている部分を丁寧に押さえていきたい。

そのほか付属教材として『単語・文法練習シート』があり、剥ぎ取り式なので宿題や小テストとして利用しやすい。また前述の『学習ノート』は生徒が家で復習するときの助けとなる。

さて、英語の運用能力を身につけるためには、ドリル学習だけではなく、タスクベースのコミュニケーション活動が必要となってくる。*Captain*では各課の文法項目とリンクした活動を紹介する『言語活動集』を用意している。それぞれの課ごとに「基礎編」と「発展編」の2種類の活動が紹介されており、生徒のレベルにあわせて選ぶことができる。また、そのままコピーすれば教室ですぐに利用できるワークシートつきなので、授業の最後はぜひコミュニケーション活動を行っておおいに盛り上げたい。

私ってどんな人?

□ 私ってどんな人?
● be動詞を使って
例) I am tall. I am 167 centimeters tall.
I am not talkative (おしゃべり). I am quiet (静か).
I am good at singing. I am bad at almost all sports.

● 一般動詞を使って
例) I live near school. I come to school by bicycle.
I like science and PE. I don't like social studies.
I have many CDs. I have about 100 CDs.
I often go to karaoke.
I go to karaoke very often. I love it.
I never eat natto. I hate it.

I am ...

I like ...

□ クラスメートの さんは、こんな人

『言語活動集』

(ひらはら あさこ・筑波大学附属駒場中・高等学校教諭)

Captain English Course I Revised

題材にこめたメッセージ

教科書編集部

■ Lesson 1 “Not No. 1 but Only One”

Captain English Course I の改訂にあたっては、この教科書のもつ「メッセージ性」をより重視しました。それをもっともよく表しているのが Lesson 1 の “Not No. 1 but Only One” です。

ここで題材として使われているのは、2003年に SMAP が歌って大ヒットした「世界に一つだけの花」です。この歌は、もともとテレビドラマの主題歌として使われていましたが、「NO.1 にならなくてもいい もともと特別な Only one」というメッセージが多くの人々に支持され、その年の紅白歌合戦でも歌われました。

以下は、この歌の内容を英語にした Lesson 1 の全文です。

This flower is beautiful.
That flower is also beautiful.
They don't compete with each other.
Each flower grows and blooms beautifully.
Each is alive and proud.
So why do we compete?
We too are flowers.
Each is unique.
Big flowers. Little flowers.
We are all different.
You're not No. 1? That's all right.
Each of us is only one.
So let's grow and bloom.

■ Lesson 6 “Is Seeing Believing?”

「目の錯覚」にスポットをあてた教材です。矢

印の羽の向きで同じ長さの線でも長さが違って見えるというような図はよく知られていますが、ここでは、それを楽しむだけにとどまらず、それが実際の生活のなかでどのように利用されているかを紹介しました。

たとえば、教科書46ページには黒い皿に載ったリングと白い皿に載ったリングの写真があります。おいしそうに見えるのはどちらでしょうか。また、道路に書かれた制限速度の数字が細長いのも、ドライバーの視点を考えて錯覚が利用されているからなのだと言えます。

Part 3 目の錯覚が私たちの生活に役立つこともあります。

You can experience illusions in a car. One example is three-dimensional signs on the road. Drivers begin to go slowly because those signs look like they're coming out of the road. Also, some numbers or letters on the road are very long. Why?

Can you read the next message?

制限速度の標記
上：横から撮影
下：ドライバーの目線から撮影

立体的に見える道路標識

experience [ɪkˈspɪəriəns]
イクスピアリエンス

? Questions
1. ドライバーが減速するのはなぜでしょうか。
2. 目の錯覚を利用したものを他にも考えてみよう。

Lesson 6 Part 3 (p.47)

図版を豊富に用意しましたが、これらは見て楽しむためだけにあるものではありません。このレッスンの文法ターゲットである「比較表現」について、実際に写真を見ながら「大きさ」「明るさ」

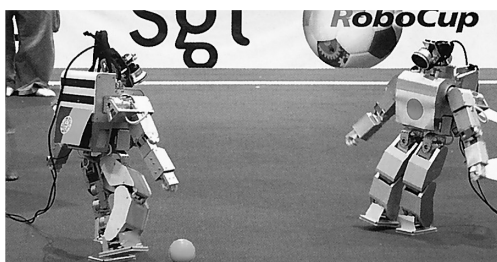
について英文で表現できるようになることを目指しているのです。*Teacher's Manual* にはその他の図版も豊富に用意していますので、授業のなかで活用していただければと思います。

■ Lesson 9 “Can Robots Beat Us at Soccer?”

ワールドカップといえば、4年に一度開催されるもの？ 毎年行われているサッカーのワールドカップがあるのをご存じでしょうか？

それは、ロボットによる「ロボカップ」です。

ロボカップは、自律移動ロボットによるサッカーの大会で、1992年、日本の研究者らによって提唱され、1997年に第1回世界大会が実現しました。2005年は大阪で第9回世界大会が開催され、今年はドイツのブレーメンでの開催が予定されています。



リスボンで行われたロボカップ 2004 (p. 72)

そして、このプロジェクトは具体的な目標として、「西暦2050年、サッカーの世界チャンピオンチームに勝てる、自律型ロボットのチームを作る」ことを掲げているのです。

ロボットは、つい最近まで二足歩行さえ困難でした。しかし、研究者は多くの困難をひとつひとつ乗り越えています。現在、ロボットは、あお向けの状態からはね起きたり、ドアノブを回してドアを開け、そこを通り抜けることさえできます。

2050年という数字は非現実的だと思いますか？ それとも、サッカーで人間がロボットに負けてしまう日はもうそこまで来ていると思いますか？

■ その他の注目教材いろいろ

Lesson 2 では、環境問題を取りあげました。アラスカのラッコが減少し、その結果、ウニや海藻にも影響が出ています。自然や生態系の大切さを考えるきっかけになればと思います。

Lesson 4 は、ご高評をいただいている、元大関の KONISHIKI さんがある高校で行ったスピーチです。この教科書のメッセージである “You are the captain of your life.” は KONISHIKI さんのスピーチからのものです。



スピーチのあとで高校生と対話する KONISHIKI さん (p. 33)

生徒が親しみをもてる話題も多く取り上げています。「恋愛」は高校生にとって最も身近な話題と言えるのではないのでしょうか。Lesson 7 は、友情と恋愛の板ばさみになってしまった Jeff がラジオの身の上相談番組に電話をかけるという設定です。生徒たちなら Jeff にどんなアドバイスをするのでしょうか。

また、Lesson 8 はボランティアをテーマに、栃木県のある高校が取り組んでいるタイでの車いすの修理活動を紹介しています。

* * *

Captain は、高校生のひとりひとりが自分自身に向き合い、自分の人生を切り開いていってほしいという思いをこめて作った教科書です。使われている英語はシンプルですが、生徒ひとりひとりの心にメッセージが届くことを確信しています。ぜひ、教科書を開いていただいて、先生ご自身の目でそれを確認していただければ幸いです。

Departure OC I Revised Edition

パラダイムシフトに対応した改訂版 Departure

吉田健三



1. 英語教育のパラダイムシフト

1月21日、2006年度大学入試センター試験で初めてリスニングテストが実施されました。公平な受験環境の保障といった物理的な問題が壁となっており、長期間実現が難航していたテストですが、近隣諸国の韓国や中国と比べると大きく出遅れた感はありません。ともあれ、日本の英語教育が一歩前へシフトした意義は大きいと言えます。

このようなパラダイムシフトに向け、現場での取り組みにも変化が見られます。1月7日付読売新聞は、大阪府立北野高校でのリスニング指導を紹介しています。「従来2年次からは入試に向けた英訳や文法の指導が中心だったところ、現在の3年生以降は2、3年次の通常の授業でもリスニングに力を入れることにした」という内容でした。現場での「温度差」は個々に多少あるかもしれませんが、音声指導を軽視できなくなったという認識は共通しているのではないのでしょうか。

2. リスニング重視へのシフト

現行版 *Departure OC I* は、高校生の知的好奇心を刺激するテーマを織り込み、「情報や相手の意向などを理解したり」「自分の考えなどを表現したり」する能力、つまり、総合的な実践的コミュニケーション能力の養成を編集方針としました。今回の改訂では、この基本コンセプトを継承しつつ、音声指導やコミュニケーション活動をより重視したモデルチェンジを行いました。

Pronunciation Skills では、単音や連音などの発音のスキルをよりわかりやすく記述しまし

た。それぞれの発音のスキルは Ready? で基本練習をした後、Go! の自然な会話の中で応用学習ができます。スキル学習ができる語や句は、会話文の中でカラーの★印で示されており、現行版に比べより明確になりました。

発音のスキルの記述例：“on” の ‘n’ は舌の先を上歯の歯ぐきにつけ、「ヌ」のように、“long” の ‘ng’ は「ハンコ」の「ン」のように発音します（7課）。“could you” のような表現では前の単語の語尾と次の単語の最初の音がいっしょになって「ジュ」と発音されます（11課）。

さらに大きなシフトは、リスニング・ストラテジーの学習を盛り込んだ点です。背景知識を活用する「知識ストラテジー」、場面から相手の発話内容を推測する「場面ストラテジー」、文脈をヒントにした「文脈ストラテジー」、話の主題にかかわる重要語句をヒントにする「キーワード・ストラテジー」、イラストや画像から内容を推測する「視覚ストラテジー」、知りたい情報だけを探しながら聞く「スキニング」、要点だけを絞って大意をつかむ「スキミング」。これら7つのリスニング・ストラテジーが、1課～16課および Listen Up! ①～④で学習できるように工夫されています。

Listen Up! ①～④は、オーセンティックな英語を聞き取る活動です。①インタビュー、②留守番電話、③ラジオで放送された公共広告、④ラジオのニュース、を内容としたまとまりのある英文を聞きます。各 Unit の末尾にある Listen Up! の直前には、センター試験リスニングテストだけでなく、TOEFL、TOEIC、英検の基礎練習にも

なる Listening Challenge があります。

筆者には経験的に、筆記試験とリスニングテストの成績との相関はあまり高くないという印象があります。実際、本校生徒1年次～3年次の実力考査をデータとし、両者（筆記12回、リスニング5回）の相関係数を算出したところ、すべてほぼ同じ数値で、0.5前後（弱い相関関係）しか認められませんでした。この現象は何故起きるのでしょうか。発音指導は行っている、ストラテジーの指導はほぼ皆無だったことが原因のひとつと考えられます。筆記試験が苦手でも普段英語の音声をよく聞いている生徒は、リスニングを得意としている場合があります。そういった生徒は、発音のスキルに加えリスニング・ストラテジーを独学で、ある程度身につけているのでしょう。他方、逆のケースの生徒も少なくなく、その結果が先の相関係数に表れているものと推察されます。

体系的なリスニング・ストラテジー学習の導入は、英語学習の偏りを矯正し、実践的コミュニケーション能力の育成へと大きくシフトさせるにちがいない、と筆者自身期待しています。

3. 「使える文法」へのシフト

各課ごとに3つの重要表現と1つの文法項目を Function & Grammar にまとめ、それらを使用したり、聞き取ったりするコミュニケーション活動を、随所に盛り込みました。

文法項目は、機能文法の観点から「使える文法」つまりコミュニケーション文法として提示しています。たとえば、「Class sizes are small. と Class sizes are smaller. はどう違うのでしょうか。」（2課）。単なる「文法」として比較級の知識をもっている、「smaller」の場合は、会話の流れから何と対比しているかを理解する必要があります。絶対数が少ない場合の“small”とは意味が異なると判断しなければなりません。また、「That sounds good. は That's good. とどう違うのですか。」（14課）はどうでしょうか。“That's

good.”は、過去の事実（例：He came to visit me last week.）や相手の申し出（例：I'll meet you at two tomorrow.）に対して、「それはいい。」とか「わかった。いいよ。」という満足や承認を伝える表現です。sound は「～のように思われる」の意味で、“That sounds good.”は、提案や勧誘（例：Let's go watch the soccer game tonight.）の応答として、「いいね。」という話し手の印象や意見を表します。「文法」の知識として、どちらも SVC の文型だとわかったり、ただ日本語訳ができるだけでは「使える文法」にはなりません。改訂版では上述のような quiz 形式でこのコミュニケーション文法の観点を盛り込み、*Teacher's Manual* で具体的な解説を行っています。

4. 一歩進んだ OC へのシフト

現場では依然として「たかが OC」といった発想はありませんか。「OC の授業では表現の定着は重視せず、ただ楽しく英語を使えばいい」「OC の学習は入試に役立たない」といった声が一部でまだ聞かれるようです。*Departure* ではそうした発想を変えるための工夫も行っています。

Departure OC I では、『学習ノート』『評価問題集』で学習内容の定着を図っています。ご使用の現場の先生から「『学習ノート』はいいですね。OC では予習や復習がさせにくいので、このようなノートがあると、生徒だけでなく、私たちも安心して授業がすすめられます。」という評価をいただき、これらは改訂版でも継続されます。

さらに、大修館ウェブサイト (<http://www.tai-shukan.co.jp/gcdroom/>) で、各課のテーマや表現が大学入試でどのように出題されているのかを紹介しています。*Departure* の活動が驚くほど入試にも役立つことを認識していただければ幸いです。

新 *Departure* は OC の授業を一歩先へシフトします!!

（よしだ けんぞう・兵庫県立神戸高等学校教諭）

Departure OC I Revised Edition

OC でリスニングから文法まで

教科書編集部

おかげさまで *Departure Oral Communication I* (以下 *Departure*) は多くの学校でご支持いただけてまいりました。改訂にあたっては、「いままでの良さを損なわずに」「ご採用校の意見を取り入れ、一層使いやすく」を心がけて編集しました。本稿では改訂版で特に改良を行った点を具体的にご紹介します。初めてお使いいただく先生方にはもちろん、これまでお使いいただいていた先生方にも、より使いやすくなったと言っていることと確信しています。

1. リスニング試験対策を強化

この1月に大学入試センター試験で、リスニングテストが導入されました。各大学の入学試験でもリスニング試験は増加の傾向にあります。しかし、「リスニング対策にわざわざ時間を割くのは難しい」「どうやって対策すればいいかわからない」という声も多く聞かれます。

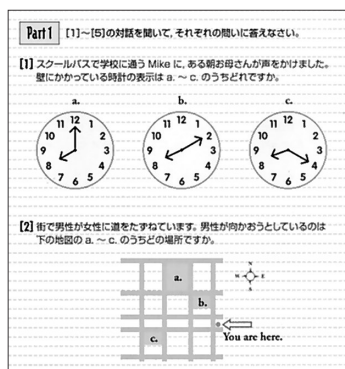
Departure 改訂版では、OC の授業で効率よくリスニング対策を行っていただけるよう、次のような工夫をこらしました。

①各課でリスニング・ストラテジーを練習

聞き取りのコツを意識しながら学習できるように、巻頭にリスニング・ストラテジーを掲げました。具体的には、知識・場面・文脈・キーワード・視覚の各ストラテジーとスキミング、スキミングの7つです。各課の *Listen & Speak* では、各ストラテジーに対応した練習ができます。

②実戦形式の問題にトライ

リスニングの問題形式に慣れるのも練習のひとつ



p. 46, Listening Challenge

つと考え、各 Unit 末に *Listening Challenge* という練習問題を設けました。資格試験やセンター試験に近い形式で、短い対話から物語文などの長文まで様々な素材を聞き取る練習を通して、リスニング力のレベルアップをはかります。

2. 語彙力増強で活動をやりやすく

「語彙力がネックになって会話がはずまない」「もっとヒントを増やして欲しい」とのご採用校からの要望に応じて、Try! でのパターンプラクティスのモデル例を増やしました。ペアのそれぞれに例が出ているので、語彙不足に煩わされずにスムーズに活動を進めていただけます。

活動に役立つ語彙リストとしてご好評をいただいている *Vocabulary Board* は巻末にまとめて、拡充をはかりました。

3. コミュニケーションの視点で文法を

表現やことばの機能が言語材料の中心になりがちな OC の授業。「文法もつねに意識させたい」

という先生方のご意見を反映させて、Function のコーナーに Grammar クイズ (Q) を設けました。たとえば「You should...ではなく You had better...と言ってはいけないのか」など、文法的には正しくても、コミュニケーションの場面では不適切になることがある表現などに注意を向けさせることにより、文法を日常生活で使いこなすためのヒントを与えます。

4. 生徒の知的好奇心に応える教材

「日常生活でのやりとりだけなら中学校から何度も行っている。もっと高校生らしい内容のコミュニケーション活動を」という先生方にも、深みのある教材でしっかりお応えします。

主人公の和明が留学先のアメリカで触れる学校生活や、移民で構成される社会の実状、アメリカ常識クイズなどは、生徒がニュースなどで耳にする知識を裏打ちしてくれるでしょう。

また、日本の文化や習慣についても、留学生を相手に会話する場面を設け、発信型のコミュニケーションにも取り組めるようにしました。

5. オーセンティックな教材で臨場感を

ご採用校の先生方からは、「教科書用に作られた教材だけでなく、臨場感のある、生の英語に触れさせたい」というご意見も多く聞かれました。各 Unit 末の Listen Up! ではコマーシャルやラジオのニュースなど、オーセンティックな教材を

Listen Up! 4

Seven O'Clock News

ラジオのニュースでは深刻な事件のほか、思いがけない、おかしなできごとがエピソードとして放送されることがあります。新聞やテレビ、ラジオのニュースはだれが(who)、いつ(when)、どこで(where)、何を(what)、なぜ(why)、どのように(how)という SWITH に注目して理解すると効果的です。

アメリカ合衆国第 39 代大統領 Jimmy Carter と彼の妻 Rosalynn には Amy という娘がいます。Amy が小学生の時のエピソードを聞いて、①～③の問いの答えを (a)～(c) から 1 つ選びなさい。

① What did Amy have a problem with?

(a) Her homework.

(b) Her lunch.

(c) Her pet.

② What did Amy's mother do to help?

(a) She called Amy's teacher.

(b) She asked a White House aide for help.

(c) She called the principal of Amy's school.

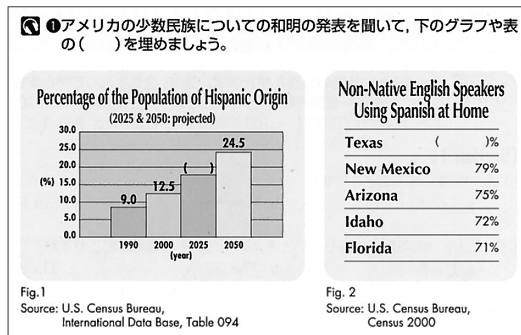


p. 90, Listen Up! 4

提供し、生徒に生の英語を聞き取れる楽しさを体験させます。

6. ヴィジュアル問題を増加

各種試験・入試問題で頻出する写真やグラフ、イラストを使用した設問に慣れるため、この形式の問題を増やしました。リスニング・ストラテジー（視覚ストラテジー）でも取り上げて、解答のコツに迫ります。



p. 67, Task アメリカの少数民族グラフ

7. 国際共通語としての英語

最後の Unit は、英語を通じて生徒の世界を広げることを目指します。イギリス、オーストラリアをはじめとする英語のバリエーションをリスニング活動で紹介し、英語という言葉への生徒の関心を一層高めます。またこの Unit は、今年 5 月から TOEIC テストのリスニングセクションで取り入れられるイギリス英語、オーストラリア英語等の発音にふれる機会ともなるでしょう。

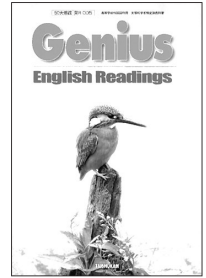
また、アジアの国々とその文化についても 1 課を設け、日本との文化的・歴史的に密接なつながりについて扱いました。英語が英米圏以外の、身近なアジアの人々とのコミュニケーションにも役立つと知ることは、生徒の英語学習への大きな動機づけになるでしょう。

これまでの良さはそのままに、リスニング対策の強化や文法や単語の拡充など、さらなるパワーアップをはかった *Departure* をぜひご覧下さい。

Genius English Readings

論説文の中で感性を磨く

境 倫代



■求められる教材とは

リーディングの教科書に求められるものは何かと考えたとき、大きく2つの点があげられるだろう。1つはリーディングという名が示す通り、読み物として、学習者に読む喜びを与え、感性や知性を豊かにしてくれることである。そして、2つ目は、語彙・文法・内容理解の教材として適切であることである。言い換えると、小説やエッセイ等のペーパーバックが持つ要素と、ある程度骨のある英文を集めた長文読解問題集が持つ要素の両方を兼ね備えていなければならないということだろう。感動を与える読み物ばかりでは、文構造を読み解く力を養うには不十分である。かといって、硬い文章の論説文や説明文ばかりでも、読む喜びが得られないかもしれない。両方を満たしてくれるリーディングの教科書を英語教員はいつも求めている。そんな教材を *Genius English Readings* の中に見出すことができる。

■感動を与える論説文

Genius English Readings に“Morals, Apes, and Us” (Lesson 11) というレッスンがある。このレッスンは典型的な科学論文であり、仮説を立て、それを実験によって検証するという構成で書かれている。しかし、そのような論説文であるにもかかわらず、読み進むにつれて、期待や感動を感じずにはいられない。以下はその内容である。

①問題提起：動物園の檻の中に落ちた子供を助けたゴリラの行動から類人猿にも人間と同様の感情があるのではないかという疑問が生じた。こ

- れについて3つの実験を行い以下の結果を得た。
- ②実験1：類人猿には攻撃的な行動を抑制し協調的に行動する能力がある。
 - ③実験2：類人猿の社会では集団のルールを破ったものに罰が与えられる。
 - ④実験3：類人猿は他の類人猿に共感し、他者への影響を考えて自分の行動を抑制する。
 - ⑤まとめ：類人猿の行動は人間と同様に、集団のルールに基づいて決定される。

このように、類人猿にも人間と同じ感情があるのではないかと、いう甚だ情緒的なテーマでスタートした内容であるにもかかわらず、その仮説を証明する過程では、緻密な実験手順や実験結果を大雑把ではなく正確に読み解いていかなければならない。時間的順序を示すつなぎ表現、因果関係を示す表現、客観的論説文に多く見られる受け身文、など文構造の理解に重要な言語材料には事欠かない。そんな中で、「仮説—実験—結果—分析」の繰り返しである。しかし、読み終わると、私たちは実験によって得られた結論に類人猿にも他者の痛みがわかるのだと、新鮮な驚きと感動を感じている。

* * *

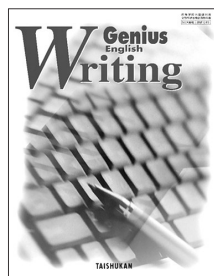
以上のことから、まさにこのレッスンは、最初に述べたリーディングの教科書に求められている2つの要素を併せ持つといえるのではないだろうか。文構造を読み解くことだけが目的ではない心温まる論説文である。精選用教材として活用しながら、読む喜びを感じてもらいたい教材といえる。

(さかい みちよ・京都教育大学附属高等学校教諭)

Genius English Writing

実践的なライティング

榎本泰子



■高校生向けのモデル文

本教科書の大きな特徴は、場面設定が authentic だということである。高校生が英文を書く動機づけとしては、昔から外国人との文通がポピュラーである。本書では情報化時代の現代社会に合わせ、Eメールやビデオレター交換という up-to-date な場面を扱っている。また、誕生日プレゼントに添える手紙、プレゼントへの礼状の書き方を学ぶことは実用的であり、実践的なコミュニケーションの機会となる。Unit 2 では日本へ留学するアメリカ人男子高校生、Unit 3 ではアメリカに留学する日本人女子高校生が登場し、ジェンダーバランスも良く、高校生が感情移入しやすい。日記文、交換留学プログラムのための応募書類など、書くことへの興味を促す内容となっている。

■文法・Function について

Study Points で文法事項の基礎を復習し、間違えやすい用法を踏まえて、Let's Check で正しい英文を書く基礎固めができるようになっていく。実際に自分で書く時に注意すべき文法事項を学ぶ目的で取り組むことができる。In Function においては、関連の文法事項を踏まえ、会話表現ではどのように表現するのかを学ぶことができる。

■ Part 2 Exercise C — 自由作文

Part 2 Exercise C の自由作文は、モデル文で習った表現を使い、自分自身について書くという活動を通し、単なる和文英訳にとどまらず、自分の考えを英語で書くというライティングの本来

の目的が達成できる練習問題である。自分自身の趣味や将来の夢、尊敬する人物などについて書くことは、英語で考え、表現する力を養う。日本事情に関する説明、会話文の作成、最後のまとめとして社会問題に関する意見文を書く、ということを通して高度な英文を書くところまで学習できる。

■入試対応のワークブック

付属のワークブックには文章整合問題、正誤問題、書き換え問題、空所補充問題など、文法力、構文構成力を問う問題があり、入試にも対応している。AからEまでの大問のうち最後のEは、表を見て東京都と山梨県の比較について英文を書くというように、与えられた情報に自分の情報や意見などを補って作文をするもので、creative writing の題材として、生徒の critical thinking skill を伸ばすことができる。

Part 2 では、最近の入試問題から、「英文を読んで自分の考えを50語程度の英文で書きなさい。」というような、長文で自分の意見を英語で書く問題が取り上げられており、入試で英文エッセイを書かせる大学が増えている中、大いに活用できる。Eの問題をいくつか宿題で書かせ、文法の誤りやスペルミスがないか、英語らしい英語になっているか、日本語の指示がある場合はそのとおりになっているか、内容的に稚拙でないか、などの基準に沿ってALTと日本人の教員の両方でチェック（添削）し、生徒へフィードバックすることで、そうした入試問題に対応することができる。

（えのもと やすこ・千葉県立成田国際高等学校教諭）

Captain English Course I Revised [50 大修館 英 I 047]

『単語・文法練習シート』

new!

生徒用

Captain English Course I

Lesson 1 >>> 基礎

年 組 番	
名前	/100

単語シート

1 次の語で最も強く発音する部分の記号を書きなさい。(各2点)

- (1) com-pete () (2) dif-fer-ent () (3) beau-ti-ful-ly ()
アイ アイウ アイウエ
(4) u-nique () (5) ques-tion ()
アイ アイ

2 次の語の意味を右から選び、記号を書きなさい。(各2点)

- (1) alive () ア. 美し
(2) unique () イ. その他
(3) bloom () ウ. なさ
(4) beautifully () エ. 唯一
(5) proud () オ. 生き生きして
(6) compete () カ. へもまた
(7) each () キ. 成長する
(8) grow () ク. 誇りに思っ
(9) too () ケ. 映く
(10) why () コ. 競う

3 次の日本語の意味を表す英語を右から選び、記号を書きなさい。(各2点)

- (1) 花 () ア. also
(2) 正しい () イ. all
(3) 小さい () ウ. so
(4) たった一つの () エ. big
(5) 大きい () オ. different

授業中の小テストにも、自宅学習用にもお使いいただけます。

文法シート

1 次の各組の文がほぼ同じ意味になるように、() に適語を入れなさい。(各5点)

- (1) { Emi is taller than Mary.
Mary is () as tall as Emi.
(2) { This pencil is longer than that one.
That pencil is () than this one.
(3) { I like this color better than any other color.
I like this color the () of all the colors.

2 次の () に適当な語を入れて、問答文を完成しなさい。(各5点)

- { The most common answer () B.
— Mary ().
(3) Who can run the fastest of the three men?
— Jeff ().
(4) Which is more delicious, this pizza or that one?
— This pizza ().

3 次の () 内の語を並べかえて英文を完成させなさい。ただし、文頭にくる語も小文字になっている。(各5点)

- (1) This may sound { you / a / to / question / like / strange }.
This may sound _____.
これはあなたにとって妙な質問に聞こえるかもしれません。
(2) { signs / look / they're / like / those } coming out of the road.
_____ coming out of the road.
それらの標識は道路から出てくように見える。

Departure Oral Communication I Revised Edition [50 大修館 オ I 026]

Teacher's Book

new!

教師用

Lesson 4 We Are Asians!

日本は立派な国で、アジアの国々から大勢の移民を受け入れてきた。これら移民のことはよく知られ、交流を深めよう。

Get Ready

アジアに関するクイズです。①～⑧は説明を聞いてそれと最もよく合う国や地域を右から選んでください。説明を聞いてから、右の地図を見ながら、国や地域を塗りつぶしてください。説明を聞いてから、右の地図を見ながら、国や地域を塗りつぶしてください。



76 UNIT 4 Lesson 14

Japan has absorbed a lot of cultural influences from Asian countries. Let's increase our knowledge of these neighbors and deepen our relationship with them.

Get Ready

Here is a quiz on Asia. Listen to the explanations and find each country or territory referred to from a ~ i on the map below. For each correct answer, you get the number of points on the chart. How many points did you score? / How was your knowledge of Asia?

Score	Points
10	100
20	200
30	300

Script Get Ready

- Question 1. This country has the largest population in the world.
Question 2. The cow is a very important and holy animal in this country. Its capital is New Delhi.
Question 3. This area once belonged to Britain, but in 1997 it was returned to China.
Question 4. The Merlion is the symbol of this small country.
Question 5. Angkor Wat is a world-famous temple in this country.
Question 6. This country is called the "Land of Smiles." Its capital is Bangkok.
Question 7. This country consists of many islands, for example, Java, Sumatra, and Bali.
Question 8. The two big islands of this country are Luzon and Mindanao. Its official languages are Filipino

リスニング・スクリプトや活動の解答、また、ALT のためにすべての日本語に英語訳を添えた「英語版」教師用教科書です。

Listening Challenge 補充問題集

new!

Listening Challenge 補充問題 4

年 組 番 5 氏 名

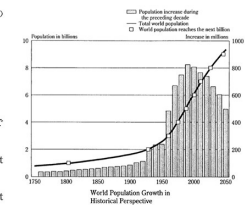
あなたはアメリカの高校で地理の授業に出ています。次のグラフを見ながら先生が説明する内容を聞き、(1)～(5)の問いの答えを a～c から 1 つ選んで、□ にレを入れなさい。

- (1) 上のグラフで、推測に基づいて記されているのは何年以降ですか。
□ a. After 1950.
□ b. After 1990.
□ c. After 2000.

- (2) 棒グラフが表しているものは次のうち、どれですか。
□ a. Population of the world at that point.
□ b. Population of the United States at that point.
□ c. Population increase during the past ten years.

- (3) 線グラフが表しているものは次のうち、どれですか。
□ a. The total population at that point.
□ b. The rate of increase of the population.
□ c. The number of babies born in that period.

- (4) 1950 年の部分で棒グラフが以前より伸びていないのはなぜですか。
□ a. Because of World War II.
□ b. Because of the change of climate.
□ c. Because of the lack of data.



センター試験対策として教科書に導入した Listening Challenge の補充問題集です。定期テストや実力試験にお使い下さい。



小特集：センター試験リスニングテスト初実施

教室でもこれだけできる リスニングテスト対策

向後秀明



■リスニングは大胆かつ繊細に

長年にわたる議論・準備を経て、ついにセンター試験にリスニングテストが導入された。今は、“大騒ぎの後の静けさ”といった感じだろうか。勤務校の生徒に受験後の感想を聞いてみたが、プレテストに触れていた彼女らは、その第2弾とも言える同形式・同レベルの問題に大きな戸惑いはなかったようである。しかし、以下のように周辺のことを言ってきた生徒が多かった。

- ・どの音量が聞きやすいかを決めるのに迷った。
 - ・隣の人の音量が大きすぎて、イヤホンから音が漏れていたのが気になって仕方なかった。
 - ・筆記試験で解答に迷った問題のことを思い出してしまい、リスニング中に気がそぞろになった。
- なるほど、である。リスニングテストは30分であり、この間ずっと集中力を持続させなくてはならない。そうかと言って、神経質になればなるほど、いろいろなことが気になり出す。リスニングテストでは「予想外のことが起きるかもしれない」という心構えで臨むぐらいの大胆さと、いったん音声の流れたら各問題のポイントを聞き逃さないという繊細さの両方をもっていた方がいい。

■やっておきたい“センター式リスニング”対策

予想通りリスニングテストには、テストデザインにおいていくつかの特徴が見られた。それを理解しておくかどうか（生徒に指導しておくかどうか）で、結果が大きく左右される可能性もある。

① 特徴 問題冊子に質問と選択肢あり

⇒ 対策 質問&選択肢の速読トレーニング

音声の流れる前に質問だけでも見ておけば、聞き取るべきポイントを絞ることができてかなり有利になる。これは簡単なことのように思われるかもしれないが、実は速読力や eye span とも関係があり、トレーニングが必要である。選択肢の読解をしているうちに次の問題が聞こえてきた、などという事態は避けてはならない。同形式のリスニングテストを使って、“質問&選択肢10秒内リーディング”といった対策をしておきたい。

② 特徴 聞き取る英語は2回聞き

⇒ 対策 1回聞きでトレーニング

これには少々驚いたが、25問のすべてを2回ずつ聞くことができる。〈質問内容の把握 → 1回目のリスニングで正解予想 → 2回目のリスニングで確認〉という流れが基本となるだろうが、逆に英検準2級・2級のような一発勝負に慣れておき、実際の試験を楽だと感じさせるという手もある。

③ 特徴 複数の情報を総合して聞き取る問題

⇒ 対策 メモ書きで情報整理

いくつかの情報をまとめて理解することが要求されるような問題に対して、聞きながら素早くメモをとる技術も大きな助けとなる。例えば第1問の間3では、質問と選択肢のイラストを見れば、机の上にあるコンピュータと本の配置を聞き取る問題であることがすぐにわかる。メモ書きに慣れていれば、このリスニングは c → l, bs → r の5文字 (c: computer, l: left, bs: books, r: right) で対処できる。授業では、音声を流しながら教師が黒板にメモ書きの例を示し、“乱雑でも的確な”メモがとれるように指導しておくといよい。

■すべての科目で“英語耳”を養成

多くの高校では、1年次に「英語Ⅰ」と「O.C.Ⅰ」、2・3年次で「英語Ⅱ」「ライティング」「リーディング」を組み合わせたカリキュラムを作っていると思われる。そこで起こりがちなのが、英語を聞いたり話したりする活動を「O.C.Ⅰ」で集中的に行い、それ以降は読解や語法・文法の理解を中心とした“視覚偏重型授業”を卒業まで続けていくという現象である。そのような状況に、センター試験のリスニングテストが一石を投じたことは確かである。運動部に所属している生徒が怪我などで練習を休むと、元の状態へ戻すまでには休んだ期間の倍近くかかると言われる。“英語耳”の状態を保つのも同様で、英語を頻繁に聞いていたのは受験の2年前までというのでは、取り返しがつかない。どの科目でも、英語を音声としてとらえる機会が与えられなくてはならない。

■リスニングの試験対策は初見の英文で

今やどの科目のどの教科書にも、CDがついている。これを使って、文字と音声を結び付けるような指導は必要であろう。しかし、例えば「英語Ⅰ」のテキストを使って listening comprehension の練習をしても、予習をしてきた生徒はすでに英文に目を通しており、理解度を測るという点では機能しない。センター試験も考慮するなら、初見の英文を用いるべきである。学習する題材内容に関連した素材があれば授業とのリンクもスムーズにいくのだが、その音声版を探すのは容易ではない。思い切って教科書の内容から離れ、別リスニング教材を使って練習することを考えてもいいのではないだろうか。実際、授業の最初に“Warm-up Listening”として、英検の過去問などを利用している先生方も多いであろう。

■聞けないものは何度聞いても…

リスニングの後の comprehension check で正解が得られないと、繰り返し何度も聞かせる――

これは生徒にとって“苦行”でしかない。聞き取ることができないのには原因があるはずで、それを追求しない限り日本のような EFL 環境下では特に、いつの間にか聞けるようになったということは起こりづらい。聞き取れない原因としては、例えば次のようなことが考えられる。

- ・未知語が多すぎて、全体像がつかめない。
- ・既習語彙なのに、実際の音が自分の頭の中で内在化している音と異なる、あるいは連結や脱落等による音変化によって認識できない。
- ・場面に関するスキーマが乏しく、聞いている内容を頭の中で visualize できない。

授業でリスニングを扱う場合はテスト形式だけでなく、原因分析に基づいて、聞けるようになるまでのプロセスを指導していくことが大切である。

■センス・グループごとに“直聴直訳”

英語の授業以外は生活のほとんどを日本語で済ませることができる生徒に、直聴直訳の考え方を振りかざしても「ハー？」と言われるだけである。英語を理解する過程で、母国語が多かれ少なかれ介在することは避けられない。むしろそれを逆手にとって、母国語を利用してリスニング練習する方法もある。その一つとして、センス・グループごとに音声を止め、その部分を聞いた順番に、必要最小限の日本語で置き換えていく“直聴直訳”方式を私は授業で実践している。センター試験のリスニングテスト Question No. 20 中の一文を例にとると、次のようになる。

There are direct flights (直行便あり)/ to Amsterdam, (アムステルダムへ)/ where she lives, (彼女が住んでる)/ but I wanted to see France and Italy as well (見たい, フランス・イタリアも), so I caught a plane (飛行機に乗った)/ to Paris. (パリへ)

このような練習をふだんから行っていれば、授業内の学習だけで十分に対応できるテストである。

(こうご ひであき・千葉県立千葉女子高等学校教諭)



小特集：センター試験リスニングテスト初実施

センター試験リスニングテストの 分析と対策

小森清久



2006年度センター試験リスニングテストは、その平均点(36.25/50点)からもわかるように平易であった。読み上げ速度(平均速度135wpm, 試行テストでは150wpm)にその一因があったのかもしれない。

事前に質問や選択肢を短時間で読む読解能力が要求される問題で、正答率の差が見られた。読解力の差がそのままりスニング力にも影響する結果となっていることは、当然ではあるが興味深い。

以下、受験生のレベル間で点差がついたと思われる問題に的を絞り、出題形式と内容を分析し、大問別に網羅した対策をまとめてみた。

第1問【対話文イラスト選択問題】(20～30語程度の対話を聴き、イラストや数字などを選択する問題)

問1 What time did the flight arrive?

- ① 2:30 ② 3:30 ③ 4:30 ④ 5:30

【スクリプト】

M: Did the flight arrive on time?

W: No. It was supposed to arrive at 3:30, but it was an hour late.

計算がポイント。高い正答率だと推測されるが、誤答では選択肢②が目立ったように思える。女性の発話にある“... at 3:30, but it was an hour late.”の箇所の聴き取りが十分にできず、聞こえた時刻で答えを出す傾向が下位レベルほど強い。(答③)

【対策】聞こえた音に引きずられないこと。butなどの「談話標識」に注意し、「新情報」を聴き取る。

第2問【対話文応答完成問題】(20語程度の対話を聴き、それに続く発話を選択する問題)

対話の最後の発話を聴き取り、それに対して柔軟に応答する力が求められる問題。対話の最後の発話には、平叙文タイプ、5W1Hタイプ、Yes/Noタイプの3種類が考えられる。

- 問9 ① Oh, I'm so glad you went.
② Oh, you never knew about it?
③ Well, you didn't miss much.
④ Who canceled the meeting?

【スクリプト】

M: I didn't see you at the meeting last night.

W: Meeting? Oh, I totally forgot about it.

平叙文に続く応答文を選ぶのがポイント。この問題は2つの点で難しい。1つは女性の発話にある“I totally forgot about it.”は「(知っていたが)すっかり忘れていた」という意味なので、選択肢②の発話は矛盾した応答となる。もう1つは、選択肢③ not miss much「(機会を逃したが)たいしたことはない」の意味理解が問題となる。(答③)

【対策】対話においては、人称を混乱してしまうことがしばしばあるので注意が必要。

第3問A【対話文質問選択問題】(45語程度の対話を聴き、質問に対する答えを選択する問題)

問14 Where are the people talking?

- ① At the National Museum.
② At the top of the hill.
③ On a bus.
④ On a train.

【スクリプト】

M: Excuse me, but you look worried. Do you need any help?

W: Yes, I want to go to the National Museum. Am I going the right way?

M: Well, yes, but you have to change buses when we get to the top of the hill.

W: OK. Thank you very much.

状況理解がポイント。正答率は高かったと予想され

る。“... you have to change buses when we get to ...” の箇所の正確な聴き取りが必要。(答③)

【対策】事前に質問と選択肢から対話内容を推測し、ポイントを絞った聴き取りをするとよい。

第3問B【会話文図表完成問題】(150語程度の対話を聴き、図表を完成する問題)

高い正答率であったと思われる。時間の推移通りに対話が展開していたので平易であった。

【対策】対話の展開を時系列にメモしながら聴き取る練習が必要。

第4問A【短文内容把握問題】(90語程度の英文を聴き、質問に対する答えを選択する問題)

問21 Who is going to take the net down?

① Coach. ② Jiro. ③ Kenji. ④ Yumiko.

【スクリプト】

Hi, Coach. This is Jiro. Um, I'm calling about Saturday's tennis practice. I know I said that I'd go to the court early to set up the net, but I'm afraid I can't get there by 10:00. The earliest would be around noon. So, I asked Kenji if he could do it instead of me, and he said that would be no problem. He has to study with Yumiko in the afternoon, so he can't take the net down, but I'll be there by then, so don't worry. OK? Bye.

「テニスコーチへの伝言」がテーマで、情報の取捨選択がポイント。できが悪かったと思われる。“... so he can't take the net down, but I'll be there by then, ...” の箇所の聴き取りと代名詞の理解が必要であったため、難しかったのであろう。(答②)

【対策】全体を聴いて、状況を理解することが重要。細部の聴き取りに神経質になり過ぎ、全体が理解できないことにならないように注意する。代名詞の把握、英語の固有名詞の発音、日本語化しているカタカナ語の発音などにも注意が必要。

第4問B【長文内容把握問題】(200語程度の話を聴き、質問に対する答えを選択する問題)

問23 What were people in Bermuda doing when the first hurricane approached?

① Cutting down the palm trees.

② Preparing to leave the island.

③ Suffering from destruction.

④ Taking action to avoid damage.

問25 What happened in the end?

① High waves brought about terrible destruction.

② Neither hurricane hit Bermuda directly.

③ The first hurricane caused a shortage of water.

④ The people's preparations saved Bermuda.

(スクリプト省略)

英文は「バーミューダ海域で起こったハリケーンの話」。問23はレベル間で点差が開いた問題。“... , so all the people were busy preparing to protect their homes against the strong winds and high waves ...” の言い換えとして選択肢④を捉えることができたかどうかのポイントであった。選択肢②のように、聞こえた語彙が選択肢の英文にあることによる誤答が目立ったと考えられる。(答④) 問25の選択肢④は、内容が理解できていないことを裏付ける誤答である。(答②)

【対策】聞こえてくる発話をほぼ同時に口頭で再生する練習(シャドーイング)が効果的。自分の発音を恥ずかしがらず、とにかく遅れずについていき、完全に発話できるようにする。最初は読み上げ速度を遅めに設定し、徐々に速めるとよい。

■今後の学習対策

2006年度のセンター試験は、リスニング初年度ということもあり、抑制を利かせたのかもかもしれないが、2007年度入試に向け徹底した準備は欠かせない。リスニングの攻略ポイントとして、次の5点が挙げられる。①事前に質問、選択肢、図表などに目を通し、内容を推測する力をつけること。②「談話標識」の聴き取りと「新情報」に注意すること。③代名詞の指示対象を把握する練習をすること。④聴き取った情報を取捨選択する力をつけること。⑤日本語化しているカタカナ語の発音に気をつけること。「全部、完璧に聴き取れなければならない」とする必要はない。英語の音を怖がらず、繰り返し英語を聴き、声に出す練習をすることが大切である。

(こもり きよひさ・河合塾講師)

動機づけを高める 英語指導ストラテジー35

ゾルタン・ドルニエイ 著
米山朝二／関 昭典 訳

斎藤栄二
(関西大学教授)



「あなたが、生徒に勉強する気があるかないを問うたとしたら、その瞬間から、あなたは教師失格である。」

こう述べたのは、故若林俊輔教授である。この言葉は厳しい。しかしこれは「動機づけをすることから教師の仕事は始まっているのだ」ということを的確に表現している。動機づけをすることを放棄したら、そこですでに英語の教師としては失格しているという明確な認識を持っている教師は、それほど多いとは思えない。

現在は、目の前にいる生徒が、常に英語を学ぶ意欲に満ち溢れていて高度に動機づけされている、などという状態ではない。また今までかつてそういうことは一度もなかった。そういう境地は、すべての英語教師が望みながら、決して目の前には実現しないユートピアにすぎない。しかも私たちの生徒は、戦後だけとつても今までかつてなかったほど学習する動機を大幅に失っているのである。私たちが単純に「学べ」と言っても「なんで学ぶの？」と反論されたら、この反論に自信を持って答えるのは非常に難しい時代に入っている。

そこで教師は二つのグループに分かれる。第一のグループは、「どうせ生徒にはやる気がないのだから」と教師自身がやる気のない方に落ちていくグループ。第二のグループは、動機づけをすることも含めて、英語の授業の作戦を根本的に考え直そうとするグループ。

もし皆さんが、少しでも第二のグループに入ろうという気概があるのなら、ドルニエイの書いたこの本を読むことをお勧めする。

私は本書を読む間、ずっとドルニエイと会話を繰り返し続けていたと思う。彼が述べていることを、一つ一つ確かめるようにして読んでいった。彼の言うことのすべてに賛成ということではないが、彼の考え方の中に多くの示唆と知見を得ることができた。

この本に説得力があるのは、本書が単なる理論の書ではなく、著者の長年の実践の経験を土台としているからである。そしてまた、動機づけについて鋭い問題意識を持ち続けてこられた米山氏、関氏の訳者としての力を見逃すことはできない。

今最も必要とされている分野に、最も必要とされている訳書を送りだされたことに敬意を表したい。

基本単語徹底活用 英語のクロスワード101

山岡憲史 著

瀧口 優
(白梅学園短期大学教授)



クロスワード・パズルは「1913年にニューヨークで生まれて以来、人類が生み出した、もっとも庶民的で、しかも知的な遊びとして、アメリカで大流行してきた」(海江田進)と言われるように、それほど古いものではない。私個人はかつて学生時代に『英単語クロスワード』(岩田一男著)に出会い、このような英語の学び方もあるのかと強く印象付けられ、その後の教員生活において何度か利用させてもらった経験がある。英語が苦手な高校生にはむずかしすぎて、結局授業で出てきた単語を使っただけの簡単なクロスワードで留まっていた。

本書は高校教師としての著者が、長年にわたって授業で取り上げながら改良を加えてきたものの総まとめである。総語数は1400語で、高校の基礎的な単語がほぼ含まれている。

頁をめくって「CROSSWORD 1」に入ると、ヨコの欄で help, days, root 等14語、タテの欄で13語を書き込むようになっている。「カギ」のコーナーではワ

ード（単語）のヒントとして例文とその訳が載っているもの、同意語や反意語が載っているもの、熟語が載せてあるもの、解説がついているものなど多様である。アンネ・フランクなどの人物も登場し、単に単語を覚えるだけのための冊子というには留まらない内容になっている。「受験生からビジネスマンまで、通勤・通学のちょっとした時間を利用して、基本の英単語を押さえよう」という宣伝文句も控えめである。既に多くの利用者を経て新装されることになったという背景もあるのであろう。

英語に限らないが、勉強は苦勞して我慢して行うものと日本では一般的に考えられている。しかし、学ぶということは楽しいことであり、ワクワクするような気持ちがあれば本当に身につくような学習にはなっていないと私は考えている。本書は英語の学習に「楽しい」「ワクワクする」という気持ちを持たせることができるものとして活用されるであろう。

なお、101のクロスワードの中には著者がかつて授業で教えた生徒により作成されたものも含まれており、授業を生徒とともに作ろうとしている著者の姿勢がうかがえる。

頁数の関係で無理かもしれないが、巻末にワードリストがあると自分がどれだけ身についたのかをチェックできるのではないかと思う。次回の改訂の際には検討していただきたい。

とみこうみ 左見右見四字熟語

別役 実 著

高草真知子

（麗澤大学・麗澤中学高等学校講師）



漢字検定で高校生が最も苦手な分野は、四字熟語である。「お経みたいで、何言ってるのかわからない」「漢字ばかりで全然覚えられない」のだそうだ。

確かに、このところ日常会話の中で四字熟語を使うことが減ってきたように思う。学校で使う四字熟語と

いえば、定期考査、服装検査、三者面談、自宅謹慎……の類か。でも、これって、四字熟語といえるの？

一般に四字熟語とは、中国の故事や仏教語に由来し、教訓が含まれているものが多い。だが、著者はそれ以外にも、「あいつは一時停止のきかない奴だね」の「一時停止」のように、単に交通用語としてではなく四字熟語としても通用している語があるという。さらに、「全く新しい四字熟語が続々と出来るようになったら、その時こそ、四字熟語がよみがえったのだと、言えるだろう」（「あとがき」）と主張する。

ならば、「あの三人は三者面談の関係に陥った」（「この偏差値じゃあ、とてもこの大学はムリですね」⇒「もっと勉強しなきゃダメじゃないの」⇒「……」のような、くっきりした上下関係）とか、「社長は自宅謹慎の態度をとり続けた」（表向きは反省しているように見えて、実は何も思っちゃいない）という表現も、アリなのかもしれない。

それはともかく、本書は「焼肉定食」から「画竜点睛」まで、四十の四字熟語を取り上げて、別役流の解釈を試みたものである。

たとえば、「一病息災」。

著者はこの「一病」を何にすべきか悩んでいる。『盲腸』や『歯痛』のように、医者が手軽に治してしまうものではないし、『インフルエンザ』や『切り傷』のような、症状が一過性のものであっても役に立たない。『痔がいいよ』と言うものもある。[…]
しかし、『あれには、ロマンチズムがない』と言って嫌うむきもある」と、一向に決まらないのだ。

そして、「隔靴搔痒」。

「かっかそうよう」というメリハリのきいた音の響きと意味の深さは、まさに四字熟語の王様。私の好きな言葉である。靴の上からかゆいところをかくような事情をよく伝えていて、万人をうならせる。著者はこの言葉を「水虫文化圏が生んだもの」と考えた。水虫のひどい友人は、「コーモリ傘の先で靴を突つく癖をつけ、従って彼の靴の、親指のつけ根と覚しき辺りには、穴があいている」という。わお！ そんな人がいたら見てみたいな、その靴。

別役実と一緒に「左見右見」しながら、四字熟語を楽しむたい人におすすめの本。

大修館書店の本

Books from Taishukan

◆英語の構造もつかめる斬新な英文法講義

スタンダード英文法

中島平三＝著

(A 5 判・160ページ・定価1,260円)

◆自律した学習者育成のために——37のレッスンプラン
英語教師のための「学習ストラテジー」ハンドブック

大学英語教育学会 学習ストラテジー研究会＝編著

(A 5 判・288ページ・定価1,680円)

◆学校教育で育てるべき力と優先事項を明らかにする

英語力とは何か

山田雄一郎＝著

(四六判・258ページ・定価1,680円)

◆理論に裏づけされた授業・学習で英語力アップ

第二言語習得研究から見た効果的な英語学習法・指導法

村野井 仁＝著

(A 5 判・224ページ・定価1,680円)

(定価＝本体価格＋税 5%)



ご投稿大募集中



『G.C.D.英語通信』は、先生方と小社英語教科書編集部との意見・情報交換の広場です。小社教科書についてのご質問、お使いいただいた感想などを小誌編集部宛にお寄せください。「GCD 教科書 Question Box」で随時ご回答・ご紹介してまいります。

また、英語や授業に関わるさまざまなご投稿、特に下記のテーマに関するものなどをお待ちしております。

- ・授業レポート…特色ある授業の実践記録
- ・授業実践シリーズ…小社教科書を使った授業の紹介
- ・英語教師のひろば…英語教育全般

ご投稿は、郵便でお送りください。採用分につきましては、発行後、薄謝をお送りいたします。なお、採用・不採用にかかわらず、原稿はお返しいたしません。また、採否のお問い合わせには応じかねます。あらかじめご了承ください。

◆営業便り◆

▶新年度を迎え、先生方におかれましてはお忙しい毎日をお過ごしのことと存じます。今年も多く先生方に、弊社発行の学習辞典をご推薦いただきました。この場をお借りし、厚く御礼申し上げます。

▶私自身、新しい辞書を手にし、期待に胸をふくらませた××年前を思い出します。新入生の皆さんが辞書を引き引き、新たな発見の喜びと自分の英語力の成長を感じ続けて下されば、うれしい限りです。

▶弊社の教科書をご採択いただいた先生方にも御礼申し上げます。弊社発行の教科書には、全て原文フロッピーを用意いたしております。各ワープロ専用機にも対応しております。ご希望の際は、弊社営業所または御校営業担当者にお申し付けください。

▶新年度が始まると、早くも平成19年度用教科書見本ができあがります。19年度は1年生向け教科書を改訂します。営業担当者もそれらを携えてご案内に伺います。お忙しい中お騒がせいたしますが、ご寛恕いただきたく何卒よろしくお願いいたします。

◆編集後記◆

▶今年初めて実施されたセンター試験リスニングテスト、その特集記事を編集、小学校での英語必修化のニュースが飛び込んできました。英語を取り巻く環境の転換点に立っていると、いやが上にも意識されます。

▶もっとも、このような目立つ変化ばかりではありません。映画好きの私にとっては、近年映画の題名が邦画、洋画問わず英語の音読み(カタカナでの)で表記される割合が高くなっていることが気になります。

▶先日電車で2人の高校生次のような話が聞こえてきました。その1人の言うには、『ロード・オブ・ザ・リング』のロードをRoadと思っていたがどうもそうではないらしい、そこで英和辞典を引いたらLoadとあり、これだと確信した、しかし学校でLordが正しいと習った、とのこと。隣で聞いていた私は、冒険物語だからRoadも、指輪が元で災難が始まるのでLoadも、映画の内容に合致しているな、などと1人で納得していました。原題と比べると定冠詞も名詞複数形のsもない「邦題」、その効用やいかに。

(葉)

Genius・Captain・Departure

英語通信

第39号

2006年4月25日発行

(年2回発行)

【出版情報】<http://www.taishukan.co.jp>

編集人 ©「G.C.D. 英語通信」編集部

発行人 鈴木一行

発行所 株式会社 大修館書店

101-8466 東京都千代田区神田錦町 3-24

Tel. (03)3294-2355(編集部) / (03)3295-6231(販売部)

振替 00190-7-40504 印刷・製本 文唱堂印刷株式会社